



週間展望

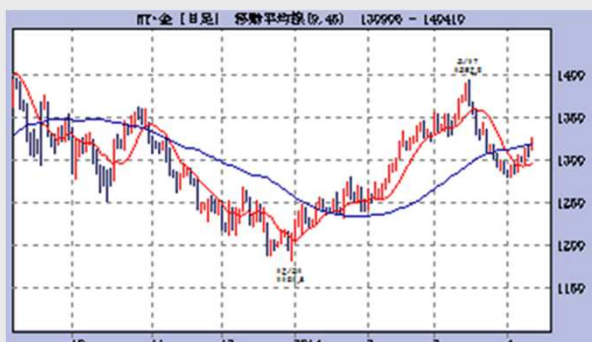
2014年4月14日の週

You can imagine the forecast of next week's futures market in only 5 minutes.

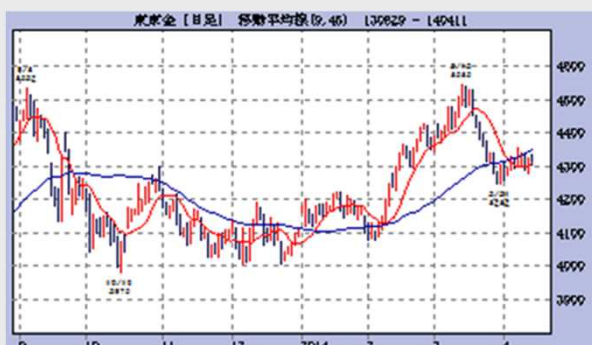
Precious Metals

発行日 2014年4月11日 (金)

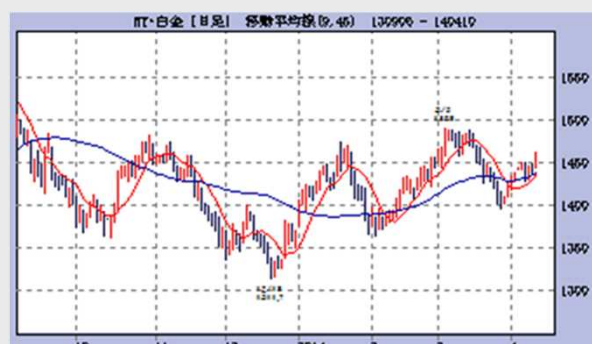
NY金チャート



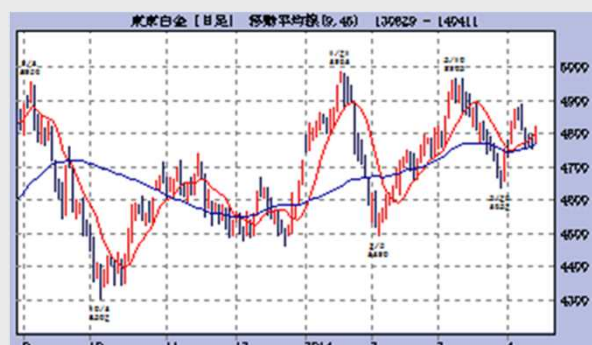
東京金チャート



NY白金チャート



東京白金チャート



【金】ウクライナでは先週まで問題なかったが、同国東部のDonetsk州で親口派が「共和国宣言」を表明し、再び緊張がよみがえった。ロシアは「治安悪化は違法に政権転覆した現政府が引き起こした」と非難している。またウクライナは価格引き上げに對抗してロシアからのガス輸入を停止すると発表、欧州へのガスきょうきゅへの懸念も高まっている。こうした地政学的リスク増大と米国の株価下落による安全資産への資金移動は、ドル円を101円台まで引き下げ、100円を割る円高も視野に入っている。黒田総裁の追加金融緩和は無いという発言も円高を誘っている。欧州では、南欧の国債が予想以上の資金をア妻ている。2年前には2ケタの利回りが当たり前であった欧州債務国は、ギリシャの5年債が5.2%程度との事前予想を覆して4.95%、300億ユーロ以上の応募が600以上の投資家から寄せられている。アイルランドの長期金利は過去最低の2.91%まで低下し、ポルトガルは3.87%、スペインとイタリアは3.16%まで低下した。スペインは米国とほとんど変わらない利回りとなっている。フランスも2.02%と1%台に再び接近し、ドイツは1.5%を割り込みそうだ。

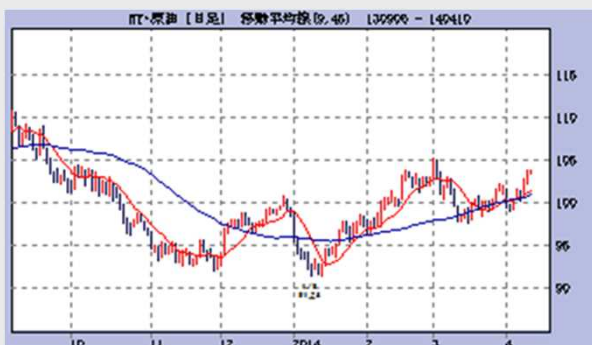
一方中国では、不動産バブルによる恐れる大手不動産会社が銀行株を買っているようだ。不動産業界による銀行投資額は184億元に達しているという。不動産各社は投資目的と述べているが、銀行との関係強化により融資維持、拡大を目論んでいることは明白だ。中国の銀行行政は、人民銀行と銀行業監督管理委員会の対立を産んでいる。人民銀行は理財商品や社債のデフォルト、あるいは地方銀行への取り付け騒ぎ等で危うい金融システムの健全化は喫緊の課題としているのに対し、銀行業監督管理委員会は、銀行を守る意識が強く、不良債権処理の加速化にも抵抗している。昨今の金融事故の主因は人民銀行の不手際にあるとの立場を崩していない。責任のなすりつけ合いにより金融不安への対処が遅れる可能性がある。中国一般企業は、これまで海外で低利のドル資金を借り入れて銅やニッケルを輸入し、それを人民元で売却し、人民元の値上がりと佐伯を理財商品など高利回りで運用することで収益を上げてきた。ところが、今や人民元が安くなっており、理財商品はデフォルトを内在している。中国大企業がこうした資金運用が逆回転を始めたことで資金繰りに詰まる可能性が生じている。中国で煙がたてば金価格は上がるだろう。

予想レンジ NY金価格 1300ドル～1350ドル 東京金4200ドル～4600円

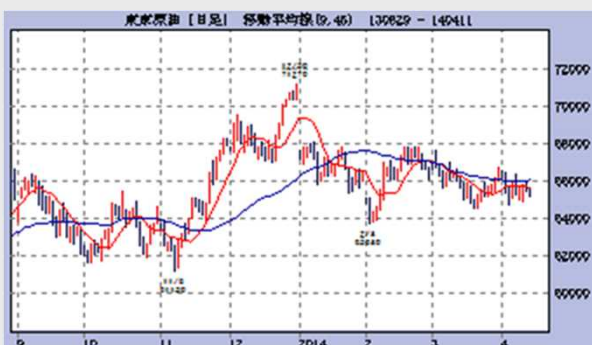
【プラチナ】3月27日付の世界第二位のプラチナ鉱山IMPALA社のAssociation of Mineworkers and Construction Union(AMCU)への回答は、AMCUが要求している月額12500ランドの賃金は基本給の4年分に相当し、今年の値上げは30%にもなる。企業としては受け入れ難いというものである。向こう3年間にわたり26%の値上げに応ずる。1年あたりは9%、8%、7.5%である。毎年、8,640ランド～10,915ランド、校内労働者は9,297ランド～11,746ランドを3年間で得ることになるという。1月20日に始まった世界3大プラチナ鉱山会社のストライキは、今日までで91日が経過。一日約300kgのプラチナ生産はこれで27トン300kg生産できないでいる。これは昨年の南アのプラチナ生産量129トンの21%に相当し、世界のプラチナ生産量178トンの15%に相当する。一方で、中国の1月～2月のプラチナ輸入通関量は累計で14.9トン、前年は8.8トンだったので、前年比+6.1トン、前年比+69%増となっている。プラチナETF残高は、こんな状況なのにプラチナ価格は横ばいであるというのは、日本のプラチナ価格が事態に鈍感であるとしか言いがたい。あるいは、誰かがプラチナ価格を抑えているのかもしれない。予想レンジ NYプラチナ 1450ドル～1500ドル 東京プラチナ4800円～5000円

Oil

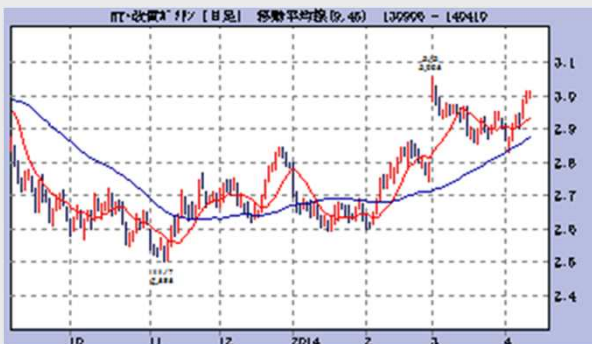
NY原油チャート



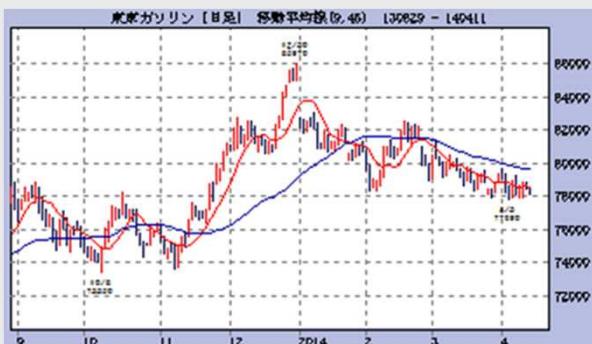
東京原油チャート



NYガソリンチャート



東京ガソリンチャート

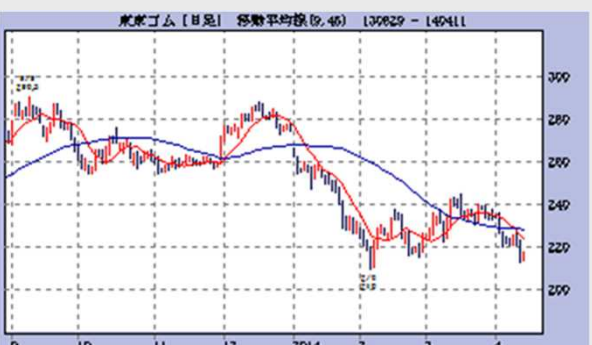


【原油】NY原油価格は103.4ドルまで上昇している。米国の週間石油週報では、ガソリン在庫が前週比▲518万バレルと大幅に減少した。これはガソリン出荷量が過去5年平均並みに良いためでもあるが、ドライブシーズン前の定期修理を前としている状況では、かなり少ない在庫であり、昨年よりは▲2.4%少く、過去5年平均と比べると▲3.3%少ない水準である。モルガンスタンレーは第3四半期に原油価格は反発して105ドルになると予想し、シティーバンクは75ドルに下落すると予想している。原油生産の実態としては、米国とカナダ以外にイラクが大幅の増産傾向にあり、年内に日量300万バレルも増加する可能性がある。イランも回復しており、リビアも抵抗勢力が石油設備を開放したため、徐々に生産が上がってくるものと思われる、それだけの生産増を吸収する世界の需要増は見られない。したがって原油価格は短期的には、ウクライナ等の地政学的リスクで上昇することはあるとしても、長期的には頭は重いと思われる。予想レンジ NY原油価格 100ドル～105ドル 東京原油価格 64000円～66000円

【ガソリン】NYガソリン価格は3ドルを超えて上昇し、3月3日の3.054ドルの直近の高値に迫っている。これを抜ければ更に上昇が予想される。ただ、ウクライナ問題で上昇している原油価格が頭打ちとなれば、下落してもおかしくない。米国のガソリン出荷量は、前週比+日量28万3千バレル、前年同月比+6.1%増、過去5年平均比+0.1%増である。前年同月比は6週連続多い水準であり、昨年よりは米国のガソリン需要は好調であるようだ。日本の石油連盟が公表した3月30日から4月5日までの週末在庫は前週比▲2.8%減の176万キロリットル、推定出荷量は▲17.6%の92万9千キロリットルとなっている。消費税増税の反動が出ているが、マーケット当然の動きと冷静に受け止めている。特にこれからガソリン価格を予想するのは難しく、原油価格の通りになるとすれば、弱含みであろう。予想レンジ NYガソリン価格 2.9ドル～3.05ドル、東京ガソリン価格75000円～80000円

Rubber

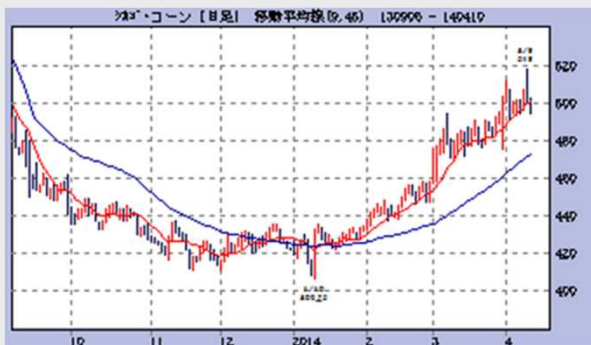
東京天然ゴムチャート



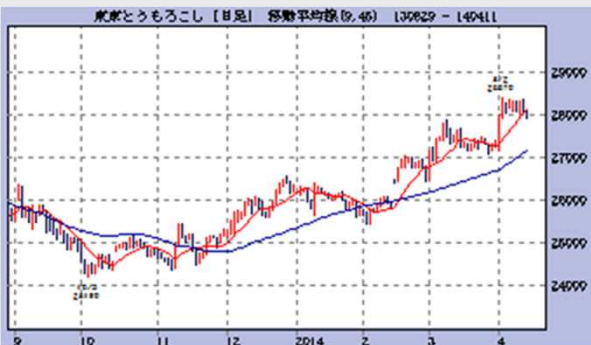
【天然ゴム】予想東京ゴム価格は3月中旬240円を超えたこともあったが、再び220円を下回って下落している。産地では減産ペースがピークを迎えて集荷量が低迷しているが、上海ゴム価格に目立った動きが見られず、東京ゴム価格は円高に伴う下落圧力に会っている。タイでは4月13日から損九ラン（水掛け祭り）となり、喚起から雨期への転換が進むことになる。しかし、その一方で気象庁は今年は5年ぶりにエルニーニョ発生の可能性が高くなっているといい、減産期が長引く可能性もある。需給は在庫増の過剰供給環境にあり、円高になるのであれば、当分価格は低迷するだろう。タイ政府による政府在庫20万トン売却の藩士は特に進展ない。東京ゴム価格210円～220円

Grain

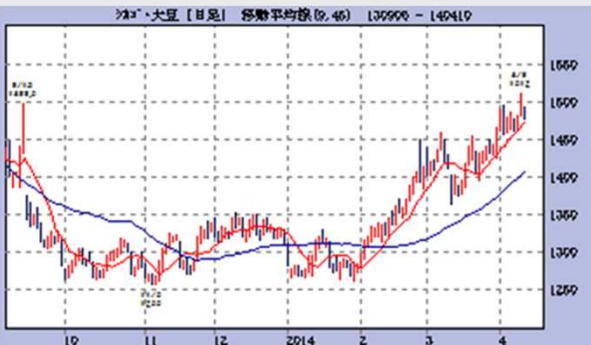
シカゴコーンチャート



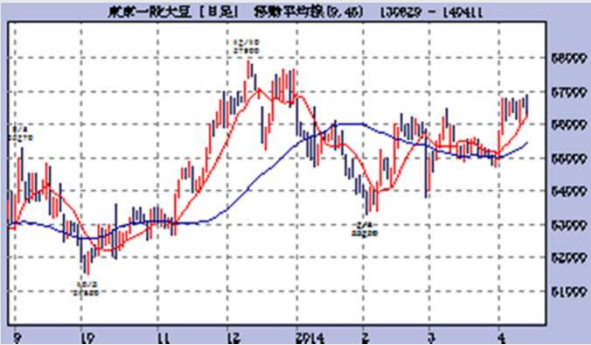
東京コーンチャート



シカゴ大豆チャート



東京一般大豆チャート

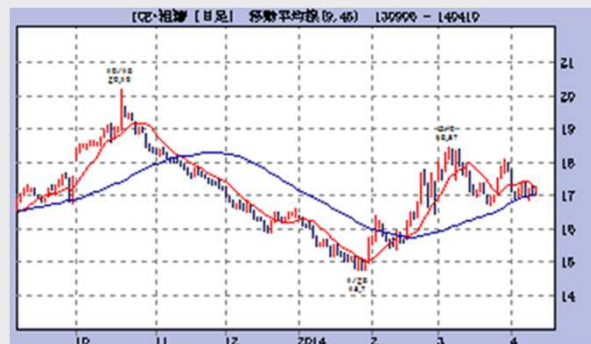


【トウモロコシ】シカゴトウモロコシは5ドルを上回って横ばいとなっている。この価格ならこれまで売り渋っていた米国農家が在庫売却を行う水準であり、それが売り圧力となっている。4月の需給報告では、13/14年度の期末在庫量は14.56億ブッシェルから13.31億ブッシェルに下方修正された。これで期末在庫見通しが下方修正されたのは5か月連続であり、昨年度より在庫量が多いが、輸出を初めとする需要が昨年より良いため、在庫量に余剰感はない。ただ、事前予想の14.03億ブッシェルよりは多かったため、価格にはインパクトはなかった。中国はブラジル産トウモロコシを認定したため、米国ばかりだったトウモロコシの輸入にブラジル産が加わる。今後は天候相場に入り、作況報告や作付け進捗率で価格は上下するだろう。予想レンジ シカゴトウモロコシ価格490セント～510セント 東京トウモロコシ価格 27500円～28500円

【大豆】シカゴ大豆価格も4月9日一時15ドルを抜いたが、再び14ドル台に戻っている。4月の需給報告では、13/14年度の期末在庫は1.45億ブッシェルから1.35億ブッシェルに予想通り減少となり、事前予想の1.39億ブッシェルも下回った。2ヶ月連続の減少であり、輸出需要が15.30億ブッシェルから15.80億ブッシェルに+5000万ブッシェル増加したことが要因となっている。今年度の累計輸出検証高は前年同期を+21.9%上回っており、在庫率は4.0%まで落ち込んでいる。4.0%というのは約2週間分強の在庫であり、非常にタイトな状況となっている。今後は作付け以降の天候相場となるが、米国東部では低温、南部で乾燥がみられる天候が続いており、エルニーニョが発生する今夏にかけて米国の天候がどうなるかが注目される。予想レンジ シカゴ大豆価格 1450セント～1550セント 東京一般大豆価格 56000円～58000円

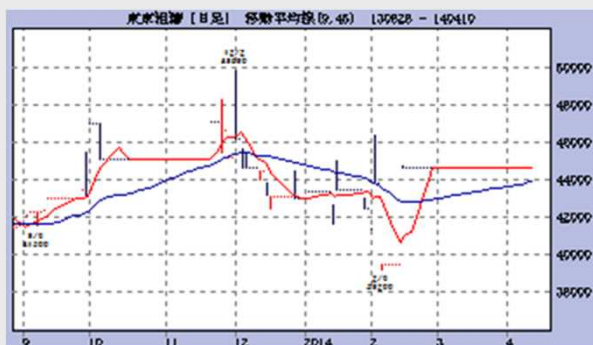
Sugar

NY砂糖チャート



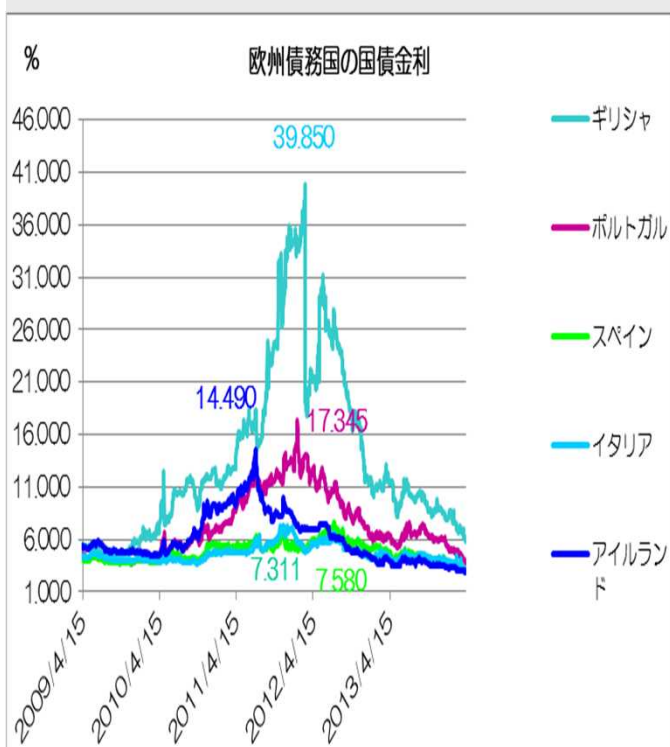
【砂糖】NY砂糖価格は17セント前半で横ばいとなっている。再びブラジルで乾燥傾向が強まる中、下落には歯止めがかかっているが、高値を試すような動きも見られない。ブラジルでは3月下旬から4月初めにかけて降水量が回復したが、再び乾燥気候になっている。このため砂糖キビ生産に懸念がでていますが、価格を押し上げるほどには至っていない。農畜産業振興機構によれば、13/14年度（13年10月～14年9月）の世界の砂糖生産量は前年比▲0.5%減の1億8214万トン、消費量は1.8%増の1億7524万トンと見込まれている。2010/11年度以来供給の方が多い状況が4年続いている。期末在庫率は47.9%と多い。

東京粗糖チャート



【砂糖】 予想レンジ NY砂糖価格 16.5セント～17.5セント。

Sidebar



【欧州債務危機だった国の国債金利、元に戻った】

一時39.85%だったギリシャの10年物国債利回りは4月10日時点で5.995%、17.345%を記録したポルトガルは、3.873%、14.490%だったアイルランドは、2.924%、7.311%だったイタリアは、3.163%と平常金利に戻っている。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310

会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

メールアドレス： kondo@commi.cc

発行元：